

1 研究部会のまとめ（第3回研究部会）

(1) 特別支援教育への支援の充実

ア) 現状と課題

- ・特別な配慮を要する生徒が増加傾向にある。
- ・高校教育には「特別支援学級」が整備されていない。
- ・自分の特性に合った高校を知る機会がない。

イ) 課題への対応策等

- ・専門的な知識を有する人材の配置
- ・通級指導教室の整備
- ・通信制高校や定時制高校の整備
- ・高校からの特色や特別支援教育に関する情報発信

(2) ICT活用教育の充実

ア) 現状と課題

- ・小中学校では、1人1台のタブレット端末が整備され、活用され始めている。
- ・社会情勢により、ICT活用が必要となっている。
- ・ICT活用に偏らない学びが必要である。
- ・基礎知識を学ぶためのICT活用方法等の研究が必要である。

イ) 課題への対応策等

- ・生徒1人1台のタブレット端末の整備
- ・ICT機器の活用方法等の研究、実践
- ・小中高を通じた発達段階に応じた学びの実践

(3) 地域に開かれた学びの充実（キャリア教育の充実）

ア) 現状と課題

- ・地域に開かれた教育課程が進められている。
- ・生徒たちが、自分の考えで行動できるような学びが必要である。
- ・高校の普通科改革が求められている。
- ・自分の住んでいる地域や社会の現実を知ることが必要である。
- ・コロナ禍において、体験や対面での学びが不足していると感じる。

イ) 課題への対応策等

- ・学校と産業界の連携の充実
- ・地域に根ざした学習の充実（特色ある教育の充実）
- ・学校規模や教育方針等、全県で取り組むための環境整備

(4) 高校間連携の必要性

- ・生徒が望んだ高校で学ぶことができない場合が考えられることから、高校間の連携について、全県で考える必要がある。

2 身近な地域の高等学校からの聞き取り結果（第2回研究部会）

(1) 塩尻志学館高校での授業参観（3年生と1・2年生の合同学習）

3年生が、自分が進む道について、これまで取り組んできたことを伝え（アドバイス）、1・2年生から質問等を受ける内容

- ① 自分の言葉で伝えることができる生徒たちであると感じた。
- ② 当時の自分を振り返って、上級生と下級生の進路交流会のような授業を受けてみたいと思った。
- ③ 発言のようすから、立派な生徒たちであると感じた。
- ④ 一人ひとりの学びの場が3年間あると感じた。
- ⑤ 夢の実現に向かって取り組む姿に感動した。

(2) 高校からの聞き取り

① 塩尻志学館高校【全日制・総合学科（8系列：・人文社会系列・自然科学系列・芸術・スポーツ系列・生活福祉系列・国際文化系列・環境科学系列・食品科学系列・情報ビジネス系列）】

「学びを校内・机上のみで完結させない」、「地元のヒト・モノ・コトとつながる学び」に取り組み、地域に根ざす高校として、地元の資産を活かした学習を行っている。

- ・自分で作る時間割（教科＋選択科目）
自分の興味関心から「個」にあわせた学び方
- ・キャリア教育を重視
悩みながら、迷いながら自分を探す
- ・探究学習（塩尻市を学ぶ）
自分の生き方を自分で切り拓く力
- ・総合研究
- ・様々な学習活動（外部講師による授業、少人数学習、2・3年生合同学習等）
- ・教師にとっては、教材研究や事前準備にかかる時間は当然増えているが、「総合学科」という特色ある本校の実践につながっている。

② 田川高校【全日制・普通科】

- ・昔に比べ、地域に出ていく活動が増えている。（地域連携）
- ・地元に進学・就職する生徒の割合が比較的高い。
- ・「特別な配慮を必要とする生徒が多くなっている」、「ICT活用教育への対応」等が課題となっている。
- ・開校当時（昭和58年4月）、学年10学級であったが、現在は半分の5学級になった。それでも定員割れの状況である。
- ・普通科の魅力ある学校づくりとまで進められない。
- ・少子化によって、以前のようなクラブ活動ができない。
- ・校舎は老朽化している。

③ 東京都市大学塩尻高校【全日制・普通科（特別選抜類型：探究コース・国公立難関私大コース 文理進学類型：特別進学コース・特別進学スポーツコース・総合進学コース・総合進学スポーツコース）】

- ・私立高校は「スピード」と「独自性」が重要である。
- ・県立高校ではできないことに取り組む独自性が必要となる。
- ・入学生徒数が定員超過で県教育委員会からお叱りをいただいたこともある。
- ・今年度は、コロナ禍において中学生が早めに進路を決めようとしていることも考えられる等、進学先が読めない状況にある。
- ・「スポーツ」と「学業」の両方をそれぞれに力を入れている。学びたい子には、朝から晩まで学習だけに打ち込める学習の場を設けたコースもある。また、グローバル的な人材の育成や文武両道コースの充実を図っている。
- ・施設、設備の充実について、スピード感をもって行っており、近隣の保育園等に貸し出しをするなどの連携が図られている。
- ・「少子化の中での募集定員数の削減への対応」、「今までの併願受験者の受け皿から、専願受験者の確保へ切り替えていく必要性」等が課題となっている。

(3) 身近な地域の高校について意見交換

① 小規模の中学校では、部活動が思うようにできないところが多いが、高校では、それが可能となる。また、中学校でも特別な配慮が必要な生徒が増えており、不登校も含めた高校の対応についてお聞きしたい。

- ・校内では、教育相談係や特別支援コーディネーターの役割を職員が行っており、外部からはカウンセラー等をお願いするなど、組織的な対応をしている。
- ・校内に「教育相談室」を設置しているが、義務教育のような「特別支援学級」は設置されない中で、週1回程度、個別の支援会議を行い対応している。学級の中に特別な支援が必要な子がいる。
- ・対応するためには、人的配置が課題となっている。
- ・保護者は、私立校は何でも受け入れてくれるものと考えているが、できる範囲で対応させていただいている。(私立高校)

② キャリア教育は、高校教育の中で重要な位置を占めていると思う。

コロナ禍などで、将来がマイナスイメージとなり、子どもたちは夢を持っていないのではないかと考える。

夢を持てる高校教育を進めるため、「探究的な学び」にどのような取り組んでいくのか、現状についてお聞きしたい。

- ・板書や講義型の授業から、ICT活用、生徒との対話型の授業へと変わってきている。教員（若手もベテランも）意識が変わってきており、双方向型の授業展開が進められている。
- ・地元の市議会と意見交換する場や、地域と連携した活動等、教員が独自に考えながら、取り組んでいる。

- ・スポーツを通じて学ぶこともある。また、生徒に地域社会でのアルバイトを進めている。(自身の体験活動)(私立高校)

③ 地域の中で活躍できる人材育成のため、社会に開かれた教育課程が重要であるが、高校卒業後に地域で活躍している姿はあるのかお聞きしたい。

- ・地域の中小企業で、自分の技術を活かして活躍する生徒もいる。(私立高校)
- ・活躍している卒業生の新聞記事を校内に掲示し、在校生に紹介する取組みを行っている。
- ・地域の方を講師に招くことを考えているが、予算的に厳しく実現していない。
- ・夢を持たせる、自分を知るためには、いろんな体験をすることが必要であり、社会に開かれた教育課程として、生徒自身が研究テーマを考えて取り組んでいる。

④ 事業所見学について、生徒自ら電話相談があり、自分で行動していると感じているが、社会に出てから、自分で考えて行動する力が弱いと感じる。(言われたことはやるが、自分から行動しようとしない。)まず、仕事や物事に興味関心を持ってほしい。それが自分で考えることにつながると思う。

⑤ 中学校においても、学びの改革を進めていかなければならない。

⑥ 自分の学校を「こんな学校にしたい」という思いが校長の話から感じられた。

⑦ 荒井座長から

- ・学びのスタイルが変わってきている。
日々の授業のスタイルまで変えられるか、どう変わるのかが要となる。
- ・不登校、発達障害など、学びが続けられることができるのか。
専門性を持った人員配置など、セーフティーネットが重要となる。
- ・生徒会などの特別活動は重要であると感じた。
生徒が自分の言葉で伝えること。
- ・これまでの進学・就職など短期的なことへの取組みから、今後の生き方など長期的なことに対する取組みが必要となる。
- ・探究的な学び、地域連携、SDGsに関して
小中学校では、学年やクラス単位でテーマを見つける総合的な学習があるが、高校では個人のテーマを持つことが重要である。

3 旧第11通学区の県立高校のあり方について（第1回研究部会）

(1) 学びのあり方に関わる意見等

ア) 探究的な学びについて

- ① 高校においても、講義型の授業とあわせて、探究的な学びを意識した授業展開となっている。
- ② 生徒が自ら課題を見つけ追究していく、将来につながる課題に対して主体的に学んでいる。
- ③ 中学校では、板書のノートへの記入をやめて、考える時間や話し合う時間に充ててみたが、生徒からは、今までのほうがよいという意見が多かったことから、単に探究的な学びの場を設けても意味がないことがわかった。
- ④ 小中学校における探究的な学びが、なかなか力がつきにくいと感じる。高校へのつながりが課題と考える。
- ⑤ グループ学習による討論する場などが増え、最近は意見を言える子どもが増えている。
- ⑥ キャリア教育に関して、市内中学校との情報交換を行い、中学校で活用しているキャリアパスポートを継続して高校でも活用できないか検討している。
- ⑦ 高校においてもコミュニティ・スクールへの取り組みが必要と考える。
- ⑧ 高校では地域の範囲が広く、地域連携は難しいものがあるが、生徒は自分の住んでいる地域の課題発見の学びは行っている。
- ⑨ 義務教育と高校教育、地域とのつながりのためには、体制づくりが必要と考える。
- ⑩ 知識・活用のための授業も重要な中で、探究的な学びや主体的対話的で深い学びについての理解が必要である。探究的な学びのモデル授業がないと理解が広がらない。

イ) 特別支援教育について

- ① 高校において特別支援教育への理解が進み、受け皿となる通級指導教室など、中信地区への設置が望まれる。
- ② 中学校の自閉障の生徒、不登校傾向の生徒たちにとって、通信制や多部制などの少人数対応の学びの場の役割は大きい。

(2) 環境整備に関わる意見等

ア) 人的整備について

- ① 特別支援教育、地域連携教育、ICT活用教育など、新しいことを行うにあたり、人材の育成と人員増が必要と考える。
- ② 新しいことを行うためには、何かを減らす必要がある。(スクラップ&ビルド)
- ③ GIGAスクール構想への対応による教員の負担増が心配されることから、サポーターによる支援が必要と考える。

(3) その他

ア) 子どもたちの高校の選び方について

- ① 高校名へのあこがれ、自分の特性や興味から学科を選ぶ、また、部活動、制服で選択することもある。
- ② 高校の体験入学などから、息づかいを感じ、志望を固める。